

平成26年10月16日(木)

老球の細道72号

黒帯の寓話

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

数年前にドイツ、チェコで行われた「バスケットボールコーチ・ユーロ研修ツアー」で偉大な若者に会った。鈴木良和氏である。当時若干30歳。千葉大学の大学院在学中にバスケットボールの家庭教師を始め、2007年に株式会社・ERUTLUC（エルトラック）を設立した。現在は関東地区でバスケットボールの家庭教師やバスケット教室などを主宰して、多くの子ども達や指導者の指導に日夜邁進している。また、活動は国内だけに止まらず、トステインと連携して日本とヨーロッパの交流にまで事業を拡大する強者である。ちなみに、平成26年度福島県バスケットボール協会主催の「日本バスケットボール協会公認コーチ・リフレッシュ講習会」では講師をお願いした。

最近、日本のスポーツコーチング雑誌やバスケットボール月刊誌に彼の論文が掲載されるようになった。ビジネス書に記載されている人づくりの原理原則を、スポーツにおけるチームづくりや選手育成に応用する内容は好奇心を刺激される。彼の笑顔を思い浮かべながら読んでみると、その内容はさらに私の心に浸透していく。

彼が雑誌で紹介した本はだいたい購入して読んだ。その中で特に印象に残ったのは『ビジョナリーカンパニー』という本である。偉大な企業が、偉大で“あり続けられなかった”企業と何が違うのかを記したものである。その中に「黒帯の寓話」なる一説があったので紹介したい。

【めったに与えられない黒帯をとうとう受け取れることになった武道家が、師範の前にひざまずいた。何年にもわたる苦しい修行によって、ようやく、頂点に立つことができる。

「黒帯を受け取る前に、もうひとつ、最後の試練がある」と、師範が言った。

「準備はできています」と武道家は答えた。もう一回、試合をすることになるだろうと考えていた。

「大切な質問に答えてもらわなければならん。黒帯の本当の意味は何なのか」

「旅の終わりです。これまでの厳しい修行に対する当然の褒章です」

師範は押し黙っていた。この答えに満足していないようだった。しばらくたって、師範は口を開いた。「まだ黒帯を与えるわけにはいかないようだ。1年後に来なさい」

1年たって、武道家は再び師範の前にひざまずいた。

「黒帯の本当の意味は何なのか」

「武道で卓越した技を持ち、頂上に達したことを示すものです」

師範は押し黙って、それに続く言葉を待っていた。この答えにも満足していないようだった。しばらくたって、師範は口を開いた。「まだ黒帯を与えるわけにはいかないようだ。1年後に来なさい」

1年たって、武道家はまた師範の前にひざまずいた。師範は同じ質問を繰り返した。「黒帯の本当の意味は何なのか」

「黒帯は出発点です。常に高い目標を目指して、終わることなく続く修行と稽古の旅の出発点です」

「そうだ。ようやく黒帯に値するようになったようだ。修行はこれからはじまる】」